



ISOE NEWS

Electronic edition

www.isoe-network.net

2011年12月 ISOE News No. 18

ISOE アジア・ヨーロッパ・北米・IAEA 技術センター (TC) 作成

ISOE ニュースは ISOE 共同事務局 (OECD/NEA-IAEA) のプロジェクトである。

ISOE 運営委員会会議

2011年11月9日～10日にパリ（フランス）で開催された ISOE 運営委員会第21回年次会議には、13カ国から原子力発電電気事業者及び規制当局の参加者が出席した。この会議の議長は、EDF（フランス）の G. Abela 氏（ISOE 議長）が務めた。

本運営委員会では、現行の ISOE プログラムが審議された。その主な結果として、以下の項目に対する承認が挙げられる。

- 来期についての ISOE 規約の更新（加盟原子力発電電気事業者社及び規制当局に対しては、承認の継続を確認することが要請される）
- 特別な新しい「シビア・アクシデント管理及び事故後復旧における職業被ばく防護に関する専門家グループ」（EG-SAM）の設立
- WGDA 作業要綱の承認
- 「職業被ばくに関するデータの定期的な収集と交換についての実務的取り決めの連携を図ることを目的とする、原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）事務局と職業被ばく情報システム（ISOE）運営委員会との間の提携枠組み」の承認



UNSCEAR との提携

「職業被ばくに関するデータの定期的な収集と交換についての実務的取り決めの連携を図ることを目的とする、原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）事務局と職業被ばく情報システム（ISOE）運営委員会との間の提携枠組み」は、ISOE の G. Abela 議長と UNSCEAR の M. Crick 事務局長により 2011年12月に署名された。この提携枠組みの目的は、放射線に関連する問題についての詳細な情報に基づく政策決定を遂行する上での健全な基盤として、当局、事業者、科学界、及び市民社会の間で、人的被ばくのレベルと傾向に対する意識を高め、その理解を深めるために、原子力施設

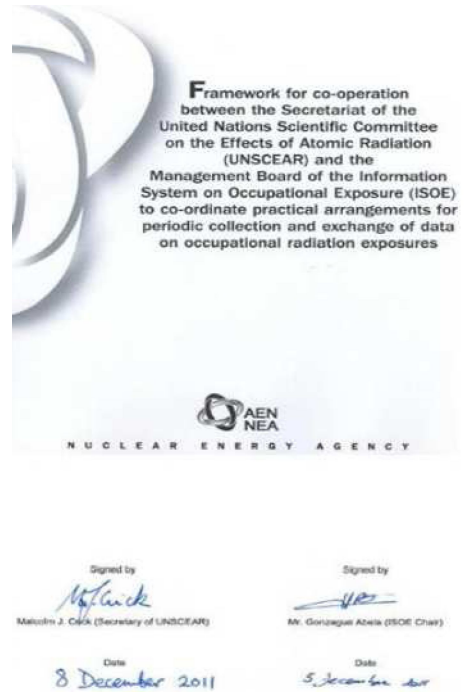
における職業被ばくに関するデータと情報を ISOE が UNSCEAR に対して体系的かつ定期的に提供する活動を促進することである。

署名された提携の関連条項によると、ISOE 事務局は ISOE 運営委員会からの指示に基づき、原子力施設従業員の国家レベルの平均被ばく線量に関するデータの収集と提供、ならびにデータの構成及びフォーマットに関連する詳細な文書の作成に対して責任を持つ。これらの具体的なデータとして、以下のような項目が含まれる。

- a. 一定期間における平均集団線量（合計、原子炉 1 基あたりの平均、発電量あたりの平均）
- b. 一定期間における原子炉の平均数
- c. 一定期間における平均発電量、及び
- d. 報告されたデータに基づく各原子炉タイプ別の合計線量

さらに、両者はこの提携枠組みに基づき、以下の項目に対して責任を負う中心的部門を任命することに同意している。

- a. 共通した活動の調整
- b. データ収集に関する問題すべての解決
- c. データ定義、若しくはデータ異常の解明
- d. データの解釈と解析への寄与、及び
- e. 収集されたデータのタイプのレビュー



シビア・アクシデント管理における ORP に関する新しい専門家グループ

ISOE 運営委員会の 11 月の会議では、「原子力緊急事態管理に関する CRPPH 作業部会」(WPNEM) と密接に協力する「シビア・アクシデント管理及び事故後復旧における職業被ばく防護に関する専門家グループ」(EG-SAM) を立ち上げることが決定された。この特別 EG-SAM の目的は、放射線防護に関する良好な実用的方法を明確化し、放射線防護について過去の原子炉事故から学んだ教訓をまとめ、これを伝達するために、シビア・アクシデントの初期対応及び復旧作業時に適切な放射線防護活動が実施される上で最良の放射線防護管理手順に関する報告書を作成することである。この会議では、本グループの専門家、さらに ISOE 技術センターの積極的な参加によるグループの作業を割り当てる上で WGDA が主導的役割を果たすことが表明された。その最終的な成果が凝集されたものであり、有用なものであることを確実にするには、この活動にとって ISOE の幅広い参加が有益であることが指摘され、また運営委員会全員に対して NEA 事務局が任命要請を送付することが要求された。この指示に従い、新たに設立された専門家グループへの任命要請が ISOE 会員に対して 2011 年 12 月に送付された。水町 渉氏 (JNES、日本) がこの専門家グループの議長として推薦及び任命された。EG-SAM は、以下の項目を実施することにより、その作業に取り組むものとする。

－ 職業被ばくの管理手順に重点を置いた上で、高放射線区域作業員の線量管理、及び運転面や線量測定などの対応時に原子力産業で得られる実務的経験に関する情報を収集する。情報を収集する上での、以下のようないくつかの第一要素が明確化されている。

- 高度汚染／照射区域での RP 管理
- サイトで必要とされる RP 装備
- 緊急時手順での線量測定による予知（事故後状況時の「通常」手順）
- 利用可能な遠隔ツール
- サイトのストレステストの線量測定への影響
- 作業員のストレス管理
- 放出の探査と停止及び汚染物質除去
- 汚染物質を固定し除去するための手段
- サイトへのアクセス手順

- 高線量率区域の監視、ホット・スポットの特定
 - 高線量率区域の遮へい及びブロッキング
 - 新しい管理区域及び区分の指定の公表
 - 緊急時対応部門で業務を遂行し、通常の年間線量限度を超える被ばくを受ける作業員の選定（例えば、遺伝子検査）
- シビア・アクシデント管理及び事故後復旧における職業被ばく防護を良好に実施する上で重要な役割を果たす要素及び側面（知識、経験、技術、規制要件及び指針、作業員の関与、情報交換、訓練面など）を明確化し、それらの作業員放射線量に対する影響を分析し、数値化する。
 - 今後の作業に対して考えられる勧告を含めた報告書を、承認を得るために ISOE 運営委員会に対して、また CRPPH に対しても提出する。

2012 年 ISOE 国際シンポジウム

ISOE 北米技術センターが主催する、2012 年 ISOE 国際 ALARA シンポジウムが 2012 年 1 月 8 日～11 日に米国フロリダ州のフォートローダーデールで開催される。このシンポジウムは、作業管理、線量管理、遠隔監視、及び線量測定最新のアプローチに関する技術論文の発表と展示を特色とする。各参加者は、過去の年度の職業放射線量パフォーマンスからの重要な BWR、CANDU、及び PWR & VVER ベンチマーキング・データを受領する。ALARA シンポジウムは、ISOE の電気事業者放射線防護マネージャーの提案により、個々のプラントで年間及び燃料交換停止の ALARA 線量目標／ターゲットを設定する作業を支援するために、暦年の早い時期に開催される。このシンポジウムでは、成果を収めた ALARA イニシアチブに関する優れたアイデアも共有される。PWR での劣化亜鉛注入、BWR での貴金属注入経験、CANDU の伝熱管交換プロジェクト、停止時の放射線作業員管理のアプローチ、及び PWR 原子炉容器上蓋の検査、修理、交換経験など、タイムリーな放射線防護管理のトピックスに関するグローバルな ALARA 技術論文が提出される。

この詳細については、以下のサイトを参照のこと。

<http://hps.ne.uiuc.edu/natcisoe/>

http://www.isoe-network.net/images/stories/call4paper/Call_FtLauderdale2012.pdf

2012 年 ISOE ヨーロッパ・シンポジウム

ISOE のヨーロッパ技術センターは、Temelin NPP 及び Dukovany NPP、ならびにチェコ原子力安全局（SUJB）との共同により、原子力施設における職業被ばく管理に関する 2012 年 ISOE ヨーロッパ・シンポジウムを主催する。このシンポジウムは、2012 年 6 月 20 日～22 日にチェコ共和国のプラハで開催される。このシンポジウムは、原子力発電所のすべての放射線防護関係者（放射線防護マネージャー及びスタッフ・メンバー、メンテナンス及び運転計画担当者など）、請負業者、（労働組合や作業委員会によって代表される）被ばく作業員、検査官及びその他の規制機関代表者、及び国際機関を対象としている。このシンポジウムは研究用原子炉、及び原子力発電所と共通した放射線防護問題を抱える他の原子力燃料サイクル施設からの専門家に対しても開かれている。このシンポジウムの主な目的は、以下のとおりである。



- 職業被ばくの問題に関する情報（実用的方法、管理及び手順、線量の結果と低減、技術及びツールの改善など）を交換する大規模なフォーラムを提供する。
- ベンダーが商業展示会で放射線防護に関するその最近の経験及び開発（測定技術、運転及びプラント設計の改善、運転及び停止時の ALARA 慣行）を紹介できるようにする。

このシンポジウムでは、参加者が正式なセッションの議論に参加し、またポスターを展示する機会が与えられる。シンポジウムの最終日には、Dukovany NPP と Temelin NPP への訪問が計画されている（訪問可能な参加者数は限られる）。

この詳細については、以下のサイトを参照のこと。

<http://www.isoe-network.net/index.php/symposium-mainmenu-113/upcoming-mainmenu-74.html>

2012年の会議スケジュール

- 2012年1月8日～11日：ISOE国際シンポジウム（フォートローダーデール、米国）
- 2012年1月30日～31日：CRPPH EGOE 会議（OECD、パリ）
- 2012年2月14日～15日：ISOE EGWC 会議（OECD、パリ）
- 2012年4月16日：ISOE ビューロー会議（OECD、パリ）
- 2012年4月17日～18日：ISOE WGDA 会議（OECD、パリ）
- 2012年4月18日～19日：ISOE EG-SAM 会議（OECD、パリ）
- 2012年6月20日～21日：ISOE ヨーロッパ・シンポジウム（プラハ、チェコ共和国）
（2012年6月19日：RPM 会議及び規制当局会議、2012年6月22日：NPP 訪問）
- 2012年11月12日～13日：ISOE WGDA 会議（OECD、パリ）
- 2012年11月13日：ISOE ビューロー会議（OECD、パリ）
- 2012年11月14日～15日：ISOE 運営委員会第22回年次会議（OECD、パリ）

詳しい情報については、ISOE ネットワーク：www.isoe-network.net をご覧ください。